

使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書（「国語1」三省堂） ・ワーク（「国語の学習1」明治図書） ・ワーク（「学習漢字ノート1」浜島書店） ・ワーク（「すらすら基本文法」浜島書店） 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料集（「国語便覧」浜島書店） ・書写「中学書写」（光村図書） ・硬筆練習帳（教育同人社）
------	--	--

【指導の重点】

- ・国語を正確に理解し、適切に表現する能力を育てる。
- ・想像力や思考力を養い、言語感覚を豊かにする。
- ・国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てる。
- ・話す・聞く分野と書く分野の効果的学習方法を工夫する。
- ・図書館を効果的に活用し、読書の充実を図る。
- ・ICT活用を積極的に行う。

【年間学習計画】

学期	学習内容	学習のねらい・身につけてほしい力
1	<p>【豊かに想像する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝のリラ（詩） ・竜（物語） ・音声のしくみとはたらき（言葉） <p>【わかりやすく伝える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペンギンの防寒着（説明） ・クジラの飲み水（説明） <ul style="list-style-type: none"> ・活字と手書き文字・画数・筆順（言葉） ・話し言葉と書き言葉（言葉） <p>【ものの見方・感性を養う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空中ブランコ乗りのキキ（物語） ・言葉の単位・文節の関係（文法） 	<p>詩の構成や表現の効果について考えながら、情景を想像して音読する。</p> <p>描写をもとに人物の心情の変化を捉える。</p> <p>表現の工夫に着目して読み、その効果について考える。</p> <p>日本語の音節や五十音図のしくみなどを理解し、音声のしくみとはたらきについて考える。</p> <p>説明文の基本構造を理解する。</p> <p>段落と段落の関係に着目しながら文章の展開を捉え、内容を読み取る。</p> <p>読み手にわかりやすく伝えるための筆者の表現の工夫を捉える。</p> <p>漢字の字体、書体の違いを理解する。</p> <p>漢字の画数、筆順について理解する。</p> <p>話し言葉と書き言葉の特徴について考える。</p> <p>イントネーション・プロミネンスについて理解する。</p> <p>場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などを捉える。</p> <p>登場人物の判断や行動について、自分の考えを確かなものにする。</p> <p>言葉の単位・文節の関係について考える。</p> <p>言葉のまとまりについて理解する。</p> <p>文の基本的なしくみについて理解する。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・字のない葉書（随筆） ・部首と成り立ち（言葉） <p>【論理的に考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄関扉（説明） 	<p>場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する。</p> <p>行動の描写をもとに、人物像や人物の行動の変化を捉える。</p> <p>漢字の部首と意味の関係、漢字の成り立ちについて理解する。</p> <p>文章の要旨を捉え、筆者の考えに対して自分の考えをもつ。</p>

<p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接続する語句・指示する語句（言葉） 【古典に学ぶ】 ・ 月を思う心（解説） ・ 竹取物語（古文） ・ 故事成語——矛盾（漢文） ・ 漢字の音と訓（言葉） 【情報を関係づける】 ・ 複数の情報を関連づけて考えをまとめる (情報) 	<p>論の展開・構成をふまえて、「外開き」が肯定される過程を捉え接続する語句、指示する語句について理解する。</p> <p>月と人々との関わりについて考える。 古文学習に意欲をもつ。 古文の仮名遣いやリズムに注意して音読し、古典の世界を感じ取る。 登場人物の相互関係や心情の変化について、描写をもとに捉える。 訓読の仕方を知り、漢文調のリズムを意識して音読する。 話の展開を捉え、表現の効果について考える。 漢字の音読みと訓読みについて理解する。 同音異字と同訓異字について理解する。</p> <p>意見と根拠などの関係に注意し、互いの発言を結び付けながら話し合い、考えをまとめる。 原因と結果、意見と根拠などの関係に注意しながら、文章などを読んで理解したことをもとに自分の考えをもつ。</p>
<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単語の類別・品詞（文法） 【読みを深め合う】 ・ それだけでいい（詩） ・ 比喩・倒置・反復・対句・体言止め（言葉） ・ トロッコ（物語） 【視野を広げる】 ・ 意味と意図（説明） ・ 方言と共通語（言葉） 【振り返って見つめる】 ・ 少年の日の思い出（物語） 	<p>単語の類別や品詞について理解する。 各品詞の特徴を理解する。</p> <p>詩の中の言葉を的確に捉えて、内容を理解する。 表現に着目しながら読み、その特徴と効果について自分の考えをもつ。 比喩（直喩・隠喩・擬人法）について理解する。 倒置・反復・対句・体言止めについて理解する。 人物の言動に着目して、心情の変化を捉える。 情景描写と場面の展開を捉え、表現の効果について考える。</p> <p>必要な情報に着目して文章を要約し、内容を捉える。 文章を読んで理解したことをもとに、自分の考えを深める。 地域による言葉の違いがあることを理解する。 方言の特徴について考える。 方言と共通語の使い分けについて考える。</p> <p>登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉える。 過去を回想する構成や語り手の視点を捉え、表現の効果について考える。</p>

【評価対象】

- ・ 授業準備、学習態度、発表や作業の様子 等
(意欲的に学習に取り組む、自分の考えをまとめる、主体的に授業に参加している)
- ・ 提出物の状況（ノートやワーク、プリント、その他課題をきちんと完成させ、期日を守って提出している)
- ・ 定期テスト、漢字テスト、小テスト等

【学習アドバイス】

- ・忘れ物はせず、授業準備をしっかりとしておく
- ・先生や仲間の意見をしっかりと聞き、よく考え、自分の考えをより豊かなものにする。
- ・積極的に発言、質問をする。
- ・重要な点や先生が強調した点は教科書やノート、ワークにチェックをしておく。
- ・ノート、ワーク、プリント類は丁寧に書き、プリントはその都度ノートに貼る。

使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書（中学生の地理、新しい社会歴史） ・中学校社会科地図 ・資料集（アドバンス中学地理資料、中学歴史資料集学び考える歴史） ・ワーク（社会の自主学習地理1、歴史1）
------	---

【指導の重点】

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、グローバルな舞台で活躍する公民としての基礎的な資質を培う。

【年間学習計画】

学期	学習内容	学習のねらい・身につけてほしい力
1	<p>[地理的分野]</p> <p>第1部第1章 世界の姿 第1部第2章 日本の姿 第2部第1章 人々の生活と環境</p> <p>[歴史的分野]</p> <p>第1章 歴史へのとびら 第2章 古代までの日本</p>	<p>大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置、地域区分、緯度と経度や地図の特徴などを理解し、世界の様子を大観する。</p> <p>日本の領域、都道府県や県庁所在地を理解して、日本の様子を大観する。世界の人々の生活の特色やその変容の理由を自然的・社会的条件などから考察する。</p> <p>歴史上の時代区分や時代の移り変わりを理解し、中学校の歴史学習の導入として、歴史に対する興味・関心を高める。</p> <p>原始・古代の日本を中心に、時代の特徴と歴史的展開を理解する。</p>
2	<p>[歴史的分野]</p> <p>第2章 古代までの日本</p> <p>[地理的分野]</p> <p>第3部第2章 第1節 アジア州 第2節 ヨーロッパ州 第3節 アフリカ州</p>	<p>原始・古代の日本を中心に、時代の特徴と歴史的展開を理解する。</p> <p>世界の各州を大観し、自然環境や生活、文化、歴史的背景等を学習する中で、地域ごとの特色と多様性を理解する。</p>
3	<p>[地理的分野]</p> <p>第4節 北アメリカ州 第5節 南アメリカ州 第6節 オセアニア州</p> <p>[歴史的分野]</p> <p>第3章 中世の日本</p>	<p>世界の各州を大観し、自然環境や生活、文化、歴史的背景等を学習する中で、地域ごとの特色と多様性を理解する。</p> <p>中世の日本を中心に、時代の特徴と歴史的展開を理解する。</p>

【評価対象】

- ①授業準備、学習態度、発表や作業の様子 等
(意欲的に学習に取り組む、自分の考えをまとめる、主体的に授業に参加している)
- ②提出物の状況（ノートやワーク、プリント、レポート、その他課題をきちんと完成させ、期日を守って提出している）
- ③単元ごとのレポート（客観的に自身の学びを捉え、自らの学習を調整しながら、次の学習に生かそうとしている）
- ④定期テスト、課題テスト、小テスト等

【学習アドバイス】

- ①忘れ物はせず、授業準備をしっかりとしておく
- ②授業では積極的に発言・発表をする
- ③作業等はていねいに取り組む、ノートやプリントは書き漏らすことなく取り組む
- ④提出物は完成させて期日を守って出す
- ⑤普段から新聞やニュースに触れて、社会的な興味・関心を高める
- ⑥インプットよりも、アウトプット（問題演習）に時間をかける。

使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書（「これからの数学1」数研出版） ・ワーク（「中学数学スタンダード問題集1年」数研出版） ・問題集（「1年の基礎整理」明治図書）
------	--

【指導の重点】

<ul style="list-style-type: none"> ・数学に対する意欲関心を高め、基礎的な知識・技能を身に付けさせるとともに、数学的な思考力、推理力、論理性を養う。 ・ICTを活用することで、多角的に事象を見る力を養う。

【年間学習計画】

学期	学習内容	学習のねらい・身につけてほしい力
1	1章 正の数と負の数	新しい数である負の数や、素数という考え方を身につける。 四則計算ができる。 具体的な場面で負の数を利用して問題解決ができる。
	2章 文字と式	文字によって事象を表現することができる。 文字と式を適切に計算することができる。
	3章 1次方程式	文字を使って1次方程式を作成できる。 1次方程式を解くことができる。 1次方程式を利用して、問題を解くことができる。
2	4章 比例と反比例	ともなって変化する2つの数量の変化を考察できる。 式・表・グラフを通して、比例と反比例の関係を理解できる。 比例・反比例の関係にある問題を解くことができる。
	5章 平面図形	平面図形の基礎を理解できる。 図形の位置を移動の概念で考察できる。 基本的な作図ができる。 平面図形の中に潜む性質を利用し、問題を解くことができる。
3	6章 空間図形	空間の位置関係を理解できる。 立体を多面的に考察できる。 立体の体積や表面積を求めることができる。
	7章 データの活用	度数分布表やヒストグラムなどについて理解できる。 目的をもって、データを処理したり、読み取れる。

【評価対象】

<ul style="list-style-type: none"> ①授業準備、授業内容に取り組む様子(意欲的に学習に取り組む、自分の考えをまとめる、主体的に授業に参加している) ②提出物の状況(ノートやワーク、その他課題をきちんと完成させ、期日を守って提出している) ③授業で行う小テスト ④定期テスト、課題テスト 等

【学習アドバイス】

<ul style="list-style-type: none"> ①忘れ物はせず、授業準備をしっかりとしておく。 ②授業では積極的に学習内容に取り組む。 ③ノートやプリント整理等、丁寧に取り組む。 ④提出物は完成させて期日を守って出す。 ⑤短時間でもよいので、習ったことは早めに復習をして理解を深める。 ⑥分からないことはそのままにせず、先生に質問するなど解決できるように努力する。 ⑦やり直しはその都度丁寧にやる。

使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書（「未来へひろがるサイエンス」啓林館） ・ノート（「理科ノート1」新学社） ・ワーク（「理科の自主学習1」新学社）
------	---

【指導の重点】

身のまわりで起こる自然事象に主体的に関わり、目的意識を持って 観察、実験などを行うことやICTを活用することを通して、物事を科学的に探究する力を育てる。また、自然事象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

【年間学習計画】

学期	学習内容	学習のねらい・身につけてほしい力
1	<p>[生命]いろいろな生物とその共通点 1章 植物の特徴と分類 2章 動物の特徴と分類</p> <p>[物質]身のまわりの物質 1章 いろいろな物質とその性質</p>	<p>身近な動物の外部形態の観察を行い、その観察記録などにもとづいて、共通点や相違点があることを見いだして、動物の体の基本的なつくりを理解すること。また、その共通点や相違点にもとづいて動物が分類できることを見いだして理解すること。 動物に対する興味・関心を高め、動物を観察するときどのような点に注目すればよいかを考える力を身につけること。</p> <p>身のまわりの物質の性質をさまざまな方法で調べる実験を行い、固有の性質と共通の性質があることを見いだして理解させるとともに、実験器具の操作などの技能を身につけさせる。</p>
2	<p>[物質]身のまわりの物質 2章 いろいろな気体とその性質 3章 水溶液の性質 4章 物質のすがたとその変化</p> <p>[エネルギー]光・音・力による現象 1章 光による現象 2章 音による現象</p>	<p>気体を発生させてその性質を調べる実験を行い、気体の種類による特性を理解させるとともに、気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身につけさせる。物質が水に溶ける際の水溶液の均一性を、粒子のモデルで理解し、物質の状態変化についての観察、実験を行い、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いだして理解させる。</p> <p>光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見いださせる。 音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じること、音は波として空気中を約340m/sの速さで伝わること、および音の大きさや高さは音源の振動のしかたに関係することを見いださせる。</p>
3	<p>[エネルギー]光・音・力による現象 3章 力による現象</p> <p>[地球]活着ている地球 1章 身近な大地 2章 ゆれる大地 3章 火をふく大地 4章 語る大地</p>	<p>物体に力をはたらかせる実験を行い、物体に力がはたらくとその物体が変形したり、動き始めたり、運動のようすが変わったりすることを見いださせるとともに、力は大きさと向きによって表されることを理解させる。また、2力のつり合いの実験を行い、1つの物体にはたらく2力がつり合う条件を見だし理解させる。</p> <p>身近な地形などの観察を通して大地の成り立ちなどを理解させる。地震計の記録から地震のゆれの特徴を理解させ、規則性を見いださせる。 さまざまな火山の活動などを調べさせ、それらのようすはマグマの性質が深く関係していることを考察させるとともに、火成岩の特徴を、成因と関連づけて理解させる。</p>

【評価対象】

①授業準備、授業内容に取り組む様子

(意欲的に学習に取り組む、自分の考えをまとめる、主体的に授業に参加している)

②提出物の状況(ノートやワーク、その他課題をきちんと完成させ、期日を守って提出している)

③定期テスト、小テスト等

④振り返りシート(毎授業の終了時に、今日の振り返りを記入する)

【学習アドバイス】

①忘れ物はせず、授業準備をしっかりしておく

②授業では積極的に学習に取り組む。

③提出物は完成させて期日を守って出す。

④短時間でもよいので、習ったことは早めに復習をして理解を深める。

⑤身近なことに興味を持ち、調べたり考えたりしよう。

使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の音楽 (1年) ・中学生の器楽 ・ワークブック 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルトリコーダー ・ファイル
------	--	--

【指導の重点】

- ・音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成する。
- ・音楽と生活とのかかわりに関心をもって生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育む。

【年間学習計画】

学期	学習内容	学習のねらい・身につけてほしい力
前期	「校歌」 (歌唱) 「We'll Find The Way ~ はるかな道へ」 (歌唱) 「主人は冷たい土の中に」 (歌唱) 「喜びの歌」 「かっこう」 (器楽) 「映画音楽」 (鑑賞) 「春」 (鑑賞) 「浜辺の歌」 (歌唱) ~ 校内音楽会に向けて ~ 課題曲・自由曲 (歌唱)	歌う楽しさを知り、音楽学習への意欲・態度を育てる。 曲のまとまりを感じ取って表現する。 基礎的な奏法を身に付ける。 イメージをもたらす音楽について知る。 曲の構成に気をつけながら、曲想の変化を感じ取る。 フレーズの特徴を生かした表現を工夫する。 互いの声を聴き合い、各西部のバランスを工夫して歌う。
後期	「オーラリー」 (器楽) 「パフ」 (歌唱) 「魔王」 (鑑賞) 「赤とんぼ」 (歌唱) 雅楽「平調 越天楽」 (鑑賞) 箏曲「六段の調」 (器楽)	基礎的な奏法を身に付ける。 ヘ音譜表を読んで、楽しく歌う。 詩の内容と曲想の変化との関わりを感じる。 詩や曲の雰囲気合った声で、言葉を大切に歌う。 楽器の音色や旋律の特徴などに気を付けながら、 雅楽のよさや美しさを味わって聴く。 基礎的な奏法を身に付ける。

【評価対象】

- ①定期考査
(楽曲の生まれた背景や詩の内容、作詞・作曲者、器楽、楽典についての知識・理解を問う問題を出題する)
- ②実技テスト (大きな声で堂々と歌い、基本的な奏法等を身につける)
- ③振り返りシート (主体的、能動的に学習をすすめ、客観的に自身の学びを捉え、次に生かそうとしている)
- ④課題プリント・ワーク (感じたことを素直に表現し、丁寧に書けている)
- ⑤積極的に歌唱・器楽演奏ができている
- ⑥忘れ物なく授業準備ができている

【学習アドバイス】

- ①忘れ物はせず、授業準備をしっかりとしておく
- ②授業では積極的に歌唱・器楽練習に取り組む
- ③プリント教材の整理がきちんとする
- ④提出物は完成させて期日を守って出す
- ⑤集団行動に参加し、自己の表現をする

使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1年（日本文教出版） ・美術資料（秀学社） ・スケッチブック ・ワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・フラットファイル ・絵の具セット ・配布プリント
------	--	---

【指導の重点】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。
対話的な学習を増やし、学びが深まるような授業づくりを行う。

【年間学習計画】

学期	学習内容（○表現、●鑑賞）	☆学習のねらい・★身につけてほしい力
前期	○見つめていると見えてくるもの （葉のスケッチ、えんぴつの使い方、筆記用具のデッサン） ○本物そっくりに作ろう （粘土を用いて立体的にモチーフをとらえる） ○色について （色の仕組み、色相環、3原色など） ○絵の具の使い方 （絵具セットの道具の説明、使い方を学ぶ） ○色料の3原色を塗ろう （シアン、マゼンタ、イエローの3色のみで色を作る） ○水の量で表現しよう （水の分量での表現の違いを表す）	☆身近なものの形や色彩、質感などに注目し、それらを表現する。 ★様々なものを観る観察力、鉛筆や色鉛筆での表現方法。 ☆色の仕組みを学ぶことで身近なものの色彩に興味を持つ。 ★色の仕組みについて理解し、身近な色の持つ効果を感じる。 ☆絵の具の使い方を学習する。 ★絵の具をその時に応じて工夫して使うことができる力。 ☆3原色からできる色を体験する。 ★混色の仕方を身につける。 ☆水の分量によって表現が違うことを感じる。 ★場合による適切な水分調節をできるようにする。
	○レタリング （様々な字体で文字のデザインをする） ●美術の始まり （美術の始まりを学ぶ）	☆形や色彩が人に与える印象を理解し、自らのアイデアをデザイン化する。 ★文字を美しく描くことができるようになる。 ☆原始美術の造形的なよさや美しさ、当時の人の考えや美術文化について考える。 ★美術史の始まりを理解し、現在へのつながりを感じる。
後期	○紙の表現 （紙の様々な可能性から作品を作る） ○広がる模様 （模様について、模様を作る） ●仏像の美 （日本の文化財の美しさや、保存について学習する） ●絵との対話	☆紙の特性やよさ、加工方法、飾る場面をもとに、美しさなどの工夫を考え構想を練ったり、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えたりする。 ★身近な材料の特性を知りさまざまな表現につなげる。 ☆直線や曲線、色彩から生まれた抽象的な形の特徴を考えたり、模様をデザインする。 ★模様のデザイン性の魅力を感じる。 ☆描かれている人や情景、構図や色彩、作者の意図と工夫について考え、鑑賞する。 ★鑑賞の楽しさを感じる。絵の見方、作者の考えを考えることがで
	○木のぬくもりを感じよう ●木材からできる形を楽しもう	☆素材の特性を生かし、自分の表現したいものに工夫する。 ★ものづくりのよさを感じる。また、道具の使い方を学ぶ。

【評価対象】

- ①授業準備、学習態度、姿勢、意欲（主体的に学習に取り組む態度）
- ②テストなどによる実技に関わる知識（造形的な視点を豊かにするための知識）
- ③作品制作の技能・工夫、完成度（表現方法を工夫し創造的に表す技能）
- ④ワークシートなどによる作品制作の発想・構想（発想や構想に関する資質・能力）
- ⑤ワークシートなどによる作品鑑賞、テストによる鑑賞の知識（鑑賞に関する資質・能力）

【学習アドバイス】

- ・提出物はきっちり提出期限を守って出す。
- ・日常のいろいろなものに目を向けたり、色や形に注目する。作品制作のヒントになります。
- ・画材や材料の性質をふまえて工夫して使う。
- ・自分の作品、他者の作品のいいところを見つけ、次の作品制作に生かす。

使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書（「新しい保健体育」東京書籍） ・ワーク（「保健体育ノート1年」新学社） ・体育実技書（「ワンダフルスポーツ」新学社）
------	---

【指導の重点】

<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康保持・増進を目指し、体力づくりを推進すると共に生徒に 体育活動の必要性を理解させる指導を目指す。 ・生涯スポーツの観点から、運動に親しむ姿勢や態度を養い、将来の生活の中に運動を取り入れてい こうとする意欲を持たせる指導を目指す。

【年間学習計画】

学期	学習内容	学習のねらい・身につけてほしい力
1	<p>集団行動</p> <p>体ほぐしの運動 【体づくり運動】</p> <p>体の働きを高める運動 【陸上競技】</p> <p>短距離・リレー 【水泳】</p> <p>水泳（クロール・平泳ぎ） 【保健】</p> <p>健康な生活と疾病の予防 【体育理論】</p> <p>体育やスポーツの多様性</p>	<p>基本的な集団行動を身につける。</p> <p>心と体との関係や心身の状態に気づき、仲間と積極的に関わり合うこと。</p> <p>体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高める。</p> <p>滑らかな動きで速く走ることやバトンパスの受渡しでタイミングを合わせること。</p> <p>手と足の動き、呼吸のバランスを取り早く泳ぐこと。長く泳ぐこと。</p> <p>健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。</p> <p>運動やスポーツは体を動かしたり健康を維持したりするなどの必要性及び競い合うことや課題を達成することなどの楽しさ生み出され発展してきたこと。</p>
2	<p>体の動きを高める運動 【体づくり運動】</p> <p>現代的なリズムのダンス 【ダンス】</p> <p>マット運動 【機械運動】</p> <p>長距離走 【陸上競技】</p> <p>心身の機能の発達と心の健康 【保健】</p> <p>運動やスポーツの多様性 【体育理論】</p>	<p>体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高める。</p> <p>リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊る。</p> <p>回転系や巧技系の基本的な運動を滑らかに行うこと。</p> <p>ペースを守って走ること。</p> <p>心身の機能の発達について理解を深める。</p> <p>運動やスポーツには行うこと、見ること、支えること及び知ることなどの多様な関わり方があること。</p>
3	<p>体の動きを高める運動 【体づくり運動】</p> <p>柔道 【武道】</p> <p>ゴール型（サッカー） 【球技】</p> <p>心身の機能の発達と心の健康 【保健】</p> <p>運動やスポーツの多様性 【体育理論】</p>	<p>体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高める。</p> <p>相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて投げたり押さえたりする。</p> <p>ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をする。</p> <p>心の健康について理解を深めるとともにストレスへの対処をすること。</p> <p>生涯にわたって運動やスポーツを楽しむためには、自己に適した多様な楽しみ方を見つけたり工夫したりすることが大切である。</p>

【評価対象】

- ①授業準備、学習態度、発表や作業の様子 等
(意欲的に学習に取り組む、自分の考えをまとめる、主体的に授業に参加している)
- ②提出物の状況 (ノートやワーク、プリント、レポート、その他課題をきちんと完成させ、期日を守って提出している)
- ③振り返りシート (主体的、能動的に学習をすすめ、客観的に自身の学びを捉え、次に生かそうとしている)
- ④定期テスト

【学習アドバイス】

- ①授業における持ち物を忘れない。
- ②授業開始2分前には授業場所へ移動完了し、準備をして待機しておく。
- ③「聞く力」を身につけ、授業中のルールを守り、誰もが安全で楽しめる授業作りに協力する。
- ④保健の授業では、板書を丁寧にするとともに、聞き取った内容も、ノートの空いている所に記入する。
- ⑤提出物は丁寧に仕上げ、必ず期限を守って提出する。

使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・東京書籍「新編 新しい技術・家庭」 ・技術・家庭ハンドノート（技術分野 材料と加工の技術） ・木材加工実習教材 ・各種プリント類等
------	---

【指導の重点】

生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

【年間学習計画】

学期	学習内容	学習のねらい・身につけてほしい力
前期	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・生活とものを作る技術について考えよう ・材料の特徴と加工方法を調べよう ・設計作りたいものを考え、構想をまとめよう ・材料を加工して部品にしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術分野三年間の4つの内容を知る。 ・ものを作る技術や工夫されている技術を知る。 ・様々な材料の性質や用途を知る。（木材, 金属, プラスチック等） ・等角図・第三角法を理解し、描ける。（寸法線等も記入できる） ・作業工程を理解し、道具や機械を正しく使用することができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・部品の組み立て、仕上げよう ・これからの生活と技術について考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・木材の加工方法を知り、実践する。 けがき, 切断, ヤスリがけ, 穴あけ, くぎ打ち, 組み立て等ができる。 ・木材資源・環境にやさしい技術・リサイクル等について考える。 ・自分の作品の自己評価ができる。
後期	※後期は家庭分野	

【評価対象】

<ul style="list-style-type: none"> ・技術・家庭ノートの記入状況 ・提出物（ノート等）の状況 ・製作品の技能・工夫・完成度 ・定期テスト

【学習アドバイス】

<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらい(目標)や課題をしっかりとって授業に取り組む。 ・学習内容に関心を持ち、進んで発言・発表に取り組む。 ・自分の生活や作品について、自分なりに工夫をする。 ・実習前の説明をしっかりと聞き、わからないことがあれば説明後に必ず質問する。 ・作業では1つ1つの工程を丁寧に行う。 ・提出物は期限を守って完成させ提出する。 ・他の人の作品にも関心を持ち、お互いに評価しあう。

使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・東京書籍「新編 新しい技術家庭 家庭分野」 ・補助教材「家庭科ワークノート 食生活（地域教材社）」 ・基礎縫い教材
------	--

【指導の重点】

生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

【年間学習計画】

学期	学習内容	学習のねらい・身につけてほしい力
前期	※前期は技術分野	
後期	私たちの食生活 <ul style="list-style-type: none"> ・食事の役割と中学生の栄養の特徴 ・中学生に必要な栄養を満たす食事 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の役割や中学生の栄養の特徴がわかり、健康に良い食習慣について理解すること ・栄養素の種類とはたらきがわかり、一日分の献立をたてることができ、食品の栄養的な特徴がわかる。
	調理のための食品選択と購入 日常食の調理と地域の食文化 衣服の手入れ <ul style="list-style-type: none"> ・基礎縫い実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・生鮮食品や加工食品の特徴を理解し、安全性、環境への配慮なども考え、用途に応じた食品の選択と管理ができる。 ・野菜・魚・肉の調理上の性質がわかり、地域の食材を生かした適切な調理ができる。 ・食品や調理用具などの安全と衛生に気を付けて、計画に沿って適切に調理することができる。 ・衣服の補習の仕方を身につける。

【評価対象】

<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト 小テスト 実技テスト 製作した作品 ・レポート 授業プリントなどの記述内容・自己評価 ・授業態度 発表や作業の取り組む様子
--

【学習アドバイス】

<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中して、話はしっかり聞こう。扱いを間違えると危険なものがたくさんあります。指示をしっかりと理解して、安全に作業しよう。 ・宿題や提出物の期限は守り、忘れ物がないようにしよう。 ・学習したことから自分の課題を見つけ、日常生活の中でどんどん実践しよう。

使用教材	・NEW HORIZON English Course1
------	---------------------------------

【指導の重点】

- ・外国語を理解し、積極的に使う態度を育む。
- ・コミュニケーション活動、音読を通して、英語運用能力の基礎を培う。
- ・言語や文化に対する関心を深め、他文化・異文化理解の基礎を培う。
- ・CAN-DOリストを作成し、授業や評価の検証を行う。
- ・ICTを積極的に活用し、コミュニケーション活動能力の向上を目指す。

【年間学習計画】

学期	学習内容	学習のねらい・身につけてほしい力
1	Unit 0 アルファベットと音、身近な単語、英文の文のきまり	アルファベットの音とつづり字の関係を理解する。英文を書く時のきまりを理解し、正しく書くことができる。
	Unit 1 be動詞と一般動詞、助動詞can	自分がふだんよくすることや、できることを伝えることができる。
	Unit 2 三人称 (be動詞 is)	身近な人やものについて紹介したり、たずねたりすることができる。
	Unit 3 疑問詞を用いた疑問文、want to~を用いた表現	いつ・どこなのかをたずねたり、数をたずねたり答えたりすることができる。
	Unit 4 命令文、時間を表す表現	相手に指示したり、時刻や好きなものをたずねたりすることができる。
2	Unit 5 前置詞、動名詞、小学校で既習の過去形	前置詞を理解し、物の位置や様子を表現することができる。また、小学校で既習の過去形を復習する。行った場所や、そこで楽しんだことなどについて話すことができる。
	Unit 6 一般動詞の三人称単数現在形	自分と相手以外の人やものなどについて、たずねたり伝えたりすることができる。
	Unit 7 代名詞の目的格、独立所有格	自分と相手以外の人について話したり、どちらなのか、誰のものなのかをたずねたりすることができる。
	Unit 8 現在進行形、感嘆文	今していることについて説明したり、たずねたりすることができる。感動を表す表現を使うことができる。
3	Unit 9 不定詞名詞的用法、補語を必要とする動詞 (look)	したいことやする必要のあることなどについて説明したり、たずねたりすることができる。視覚的な判断について表すことができる。
	Unit 10 一般動詞の過去形	過去の出来事について説明したり、たずねたりすることができる。
	Unit 11 be動詞の過去形、there構文	過去の状態や気持ち、過去のある時点にしていたことについて説明することができる。There構文を用いて物の存在について表現できる。

【評価対象】

- ①授業準備、授業内容に取り組む様子（積極的に声を出し、練習している。主体的に授業に参加している。）
- ②提出物の状況（ノートやワーク、その他課題をきちんと完成させ、期日を守って提出している）
- ③授業で行う小テスト
- ④定期テスト、課題テスト、スピーキングテスト等

【学習アドバイス】

- ①授業準備をしっかりと、忘れものはしない。
- ②授業には積極的に参加し、声を出して練習する。
- ③ノートやプリント類は丁寧に書く。また、プリントの答え合わせは正確に行う。
- ④提出物は期日を守り、完成させた状態を出す。
- ⑤授業の前には予習をする（新出単語の意味調べをする、本文を写す、など）。
- ⑥学習した内容は音読・自主学習ノート・ワークなどを通して必ず復習する。